

子ども・子育て支援に関わる団体への意見聴取

実施方法

区内の子どもや子育て世帯に関わる活動を行っている団体に対し、活動の中で把握している子どもや子育て世帯の状況、困難な課題を抱える子どもへの支援のあり方などについて、アンケートやヒアリングを実施

実施団体

	カテゴリ	実施団体
1	妊婦・出産支援団体	助産師会
2	障害児通所施設	放課後等デイサービス連絡会
3		児童発達支援施設連絡会
4		鹿本学園保護者(医ケア団体)
5	子ども食堂運営事業者	えどがわっ子食堂ネットワーク
6	外国人子ども支援団体	外国語ボランティア江戸川
7	子どもの遊びに関する団体	子ども会
8	社会的養護施設運営者	自立援助ホーム えどがわ
9		自立援助ホーム L'Espoir
10		わんぱく乳児院
11		つむぎの家(児童養護施設)
12		ファミリーホーム coco porta
13	子ども・子育て支援団体	たすけあい ワーカーズもも
14		江戸川こどもオンブズ
15	引きこもり支援団体	駄菓子居場所 よりみち屋
16	ヤングケアラー支援団体	ケアラーパートナー木の根っこ
17		ワーカーズコープ
18	不登校支援団体	東京シュール

子ども・子育て支援に関わる団体への意見聴取

ヒアリング内容・主な意見

赤ちゃんからの性教育の必要性、プレコンセプションケアの大事さが分かる助産師を活用してほしい。

産後支援を調べたり、申し込んだりの手続きが大変。サポートするコーディネーターの立場の人がいると良いのではないか

未就学児に対する発達検査の充実や子育てに関わる機関が、発達相談・発達支援を行っている機関に関する情報を共有し、必要な保護者に対して適切に情報提供する体制を構築してほしい

障害を持つ子どもが参加できる余暇活動がまだまだ少なく、近隣、地域との関わりが持つことが不足している。障害あるなしに関わらず、気兼ねなく、楽しめる場をさらに増やしてほしい

発達障害・軽度知的能力障害が見過ごされ、虐待に至ったのではないかと見受けられるケースをいくつも見てきた。より小さいときに気づかれ、本人と家族を支援する仕組みが必要

日本人と外国人が精神的な垣根を越えて一緒に活動できる企画を望む。また、外国人の子どもと接点を持っている個人や団体のネットワークの形成により日本人の子ども達や外国人の子ども達が一緒に活動できる機会を増やすことで、子どもの健全な成長・利益につながると思う

社会的養護につながった子ども達は一定程度の生活を保障されるが、支援につながらずに家庭の中で貧困や家族の世話に追われる子どもたちをどうやって支援につなげていくか、部署を超えた横断的な連携、団体や地域組織を含めた全体的な支援が必要

乳児院は入所だけでなく、地域の子育て家庭の相談相手として開かれていることを知ってほしい

児童養護施設の認知度を高めると共に意識を向上させ、子どもたちへの偏見等をなくしてほしい

子ども・子育て支援に関わる団体への意見聴取

ヒアリング内容・主な意見

義務教育を終えた年齢から、20代くらいまでの若者を対象とした相談先、事業、支援が不足している。若い世代の居場所や相談先が必要だと感じている。「トー横キッズ」のような「小岩キッズ」も存在していると聞く。子どもの人口が多い江戸川区では早急にこの年齢への支援が必要

子ども食堂について正しく理解してもらい、区内で50ヶ所以上の食堂が活動している情報を広げてほしい。特に、小中学校の子どもたちへの周知に努めていただきたい

子どもの居場所が少ない。子ども食堂は一気に増えたが、日常的な場が圧倒的に少ない。冒険遊び場や子育てひろばなど、地域にいくつもあってほしい

学齢期の子どもたちには、学校外の居場所が少ない。小学生はとくにない。すすくスクールではない場所が必要

学校（とくに担任あるいは校長）によっての対応の差が大きく、それによって左右される

教育現場の専門職（SSW）が何故動かない、動けないのかの理由を明確にし、教育現場がより積極的にこの問題に取り組めるようにしていくこと

在宅で育っている子が増えている時代です。多様な学びのひとつとして、在宅の学びに支援をし、自己肯定感をもって育つ方向性を事業化してほしい

子どもや子どもに関わる大人への継続的なヒアリングの場・自由な意見交換の機会があるといい

子どもたちが家族以外・家庭以外でも心配事を発信SOSができる環境作りを作る事

ヤングケアラーの受皿となっている当施設を「児童育成支援拠点事業」として取り上げて頂きたい